

社会福祉援助技術論Ⅳ（コミュニティワーク） ~20◆

科目コード●C J 4 1 2 9

担当教員●松田昭裕



2 単位

R

3 年以上

この科目は、平成20年度以前入学者に対して開設されている科目です。平成21年度以降に入学した方は、履修することはできません。

科目の内容

地域において住民が何らかの要因で困難や問題が起こったときに、さまざまな社会資源を組織化し、かつ活用しながら問題解決に導いていくのが、地域援助技術（コミュニティワーク）です。近年、地域福祉の時代や在宅福祉の時代と言われるなか、地域で解決すべき課題が山積し、ますますコミュニティワークが果たす役割は大きくなっています。

地域援助技術は、地域社会の福祉ニーズや福祉問題、福祉運営の課題に対応して、直接援助技術が展開しやすいように環境を整える働きをする技術であるため、地域の歴史や特性、環境の違いを念頭に入れて展開されるものといえます。

この科目では、社会福祉援助技術を把握した上で、地域援助技術の対象・主体・組織・方法など体系と理論およびワーカーの役割について学びます。

到達目標

地域援助技術（コミュニティワーク）の沿革、展開過程のプロセス、コミュニティワーカーの役割を述べることができる。

教科書（社会福祉援助技術論Ⅰ・Ⅲ・Ⅳ共通）

- 1) 福祉士養成講座編集委員会編『新版 社会福祉士養成講座 8 社会福祉援助技術論Ⅰ（第3版）』中央法規出版、2006年
- 2) 福祉士養成講座編集委員会編『新版 社会福祉士養成講座 9 社会福祉援助技術論Ⅱ（第4版）』中央法規出版、2007年

※社会福祉援助技術論Ⅰと共通のため、この科目での教科書配本はありません。

履修登録条件

この科目は、「社会福祉援助技術論Ⅰ」をすでに履修登録済みか、同時に履修登録をす

る方のみが履修登録できます。

レポート課題

1 単位め	日本におけるコミュニティワークの沿革を述べ、コミュニティワーカーの役割について論説しなさい。
2 単位め	あなたの身近な事例（架空の事例も可）、またはテキストの事例を織り込みながら、地域援助技術の展開過程のプロセスを参考にまとめ、あなたの考えを述べなさい。 ※スクーリング受講者専用「別レポート」対象課題

アドバイス

地域援助技術は、自分の住んでいる地域のことを想定しながら読み進めていくと、より深く理解が進むと思います。

また実際に地域援助に携わっている方は、ご自身の仕事の内容と実際の業務とを比較しながら読み込んでいくと、理解の幅がぐっと広がっていくと思います。

自分自身の問題、つまり当事者意識でこの科目を学修されることをお勧めいたします。

1単位め 解説

国政的には、コミュニティワークの前身はCOS（慈善組織協会）の活動やセツルメント活動などであるが、ここでは、日本の沿革を学んでください。さらに、ワーカーとしての役割についても、しっかりと学んでください。

2単位め 解説

事例研究としての課題です。その事例もあなたが決めてください。あなたの身近にある事例、架空の事例、または、テキストにある事例を取り上げ、地域援助技術の展開過程の「活動の発端」から「ステップ4」にもとづいてまとめ、あなたの考えを記してください。なお、展開過程は、「活動の発端」は必ず必要ですが、「ステップ1～4」は、必ずしもその順序になるとは限りません。

科目修了試験 評価基準

内容を理解しているか、キーワードが適切に使用されているかを評価基準にします。

参考文献

- 1) 杉本敏夫・斉藤千鶴編『改訂 コミュニティワーク入門』中央法規出版、2003年
- 2) 高森敬久ほか著『地域福祉援助技術論』相川書房、2003年
- 3) 井岡勉監修『住民主体の地域福祉論』法律文化社、2008年

- 4) 濱野一郎ほか編 『コミュニティワークの理論と実践を学ぶ』 みらい、2004年
- 5) 山田宜廣著 『住民主導の地域福祉運営』 筒井書房、2009年